

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870101379
法人名	(株)クロスサービス
事業所名	グループホームだんだん
所在地	愛媛県松山市朝生田町7丁目13-28
自己評価作成日	平成23年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・何事もお利用者様と相談して決めており、ご利用者が生活できる環境を提供、提案するようにしている。利用者同士で助け合ったり、スタッフもご利用者と共に、ホームで悩んだり楽しんだり生活するようにしている。また、外出には力を入れており、ご利用者の今しかできない事や思いを大切にしている。
 ・スタッフは、ご利用者の生活を大切にできるようにご利用者の声やサインに耳を傾けようと努力している。ご利用者と共に考えることで、介護するという一方的な関係ではなく、共に生活する者としてご利用者と接するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入浴の時間は、毎朝食後にその日の利用者の体調等もみて予定を決めるようにされており、個々に希望をお聞きしながら支援されている。夜間は9時まで入浴できるように体制を作っておられる。気管切開されている利用者も、エアークッション等の用具やケアを工夫して、浴槽で温まれるように支援されている。利用者それぞれに合ったシャワー椅子を準備されていたり、入浴剤をいくつか準備して、利用者が選り入浴を楽しめるよう工夫されている。浴室の壁には、季節を感じるようなポスターを貼っておられたり、お花見に行けなかった利用者には、桜や桃の花の枝を飾り、浴槽には花びらを浮かべて、春の雰囲気を楽しんでいただいたこともある。シャンプーや石鹸、ボディソープ、おけ等は、利用者が使いやすいものをそれぞれ準備して、ご自分の力を使ってくつろいだ入浴ができるよう支援されている。
 トイレの便座の横に、椅子が置かれてあり、ひとりで座ることが難しい利用者については、職員が横のいすに座ることで、ご本人がトイレで排泄できるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム だんだん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

上野 睦子

評価完了日

平成23年 10月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 平成21年に全スタッフとコンプライアンスや運営方針を確認しながら作成し、フロアや事務所など目にとまるところに掲げている。また、新人スタッフやボランティア、実習などホームに関わる方には理念の説明を行い、私達の目指す方針を理解してもらえるようにしている。ミーティングや申し送りなどでも確認するようにしている。 (外部評価) 事業所では「自分や家族が入りたいホーム」を目指し、理念は職員で話し合っ「声をかけたりかけられたり 相手の想いと向き合い 笑顔でよりそう あったかだんだん」と作成されている。	「事業所が目指すことを職員で考えたり話し合うことで、職員同士の絆が深まる」ということもあって、職員の入れ替わりがあったことをきっかけにして、事業所では新たに理念の作成に取り組んでおられる。さらに職員が一丸となって利用者の「その人らしい暮らし」を支えていけるように、理念の作成に取り組んでいかれてほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩時や掃除の時には地域の方に挨拶をしたり、されたりしている。地域の行事には声をかけていただきご利用者と参加するようにしている(運動会や避難訓練、夏祭りなど)。また、今年度は組長をする事になり、以前より繋がりが持てるよう働きかけている。 (外部評価) 今年度、事業所が地区の組長の役を務めることで、地域の方が事業所のことを気にかけてくださったり、組長の仕事を教えてくださる等交流する機会が増えている。地域の方からは、「ここがあるけん、心強い」と言ってくださる方もあり、地域の方が事業所のことを「どのように思っているか」ということを知る機会にもなっているようだ。毎週来てくれる移動パン屋さんにも「かわら版」を読んでもらって、事業所のことを知っていただけていて、利用者がパンを選んだり、支払い時にも協力してくださっている。今後、地域の交番に「かわら版」を届けたり、組内の集金や配布物は、利用者と一緒に回る等、事業所へのさらなる理解や協力を広げたいと考えておられる。調査訪問時、高齢で男性のボランティアの方が来られていて、利用者にとって懐かしい歌やお話をして過ごしている様子がみられた。ボランティアの方が初めて来てくださった日を「記念日」と決めて、事業所からお礼を込めてプレゼントをされ、交流を深めておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) かわら版を3～4ヶ月に1回発行し、地域の方や公民館、移動販売の方などに配布し、取り組みや認知症についての理解を深めてもらえるようにしている。また、地域に出向きご利用者と接しているところをみてもらうようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、開催している。2ヶ月ごとのホームでの取り組みを報告したり、テーマを決めて意見をもらうようにしている。(消防訓練、外部評価についてなど)また、ご利用者、スタッフも必ず参加するようにし、ミーティングにて会議の内容は報告するようにしている。今年度は、会議のなかで、消防訓練を2ヶ月に1回にしてみても意見もらった。</p> <p>(外部評価) 8月の運営推進会議時に避難訓練を行った際、地域やご家族の方の災害時の不安や心配ごとを知ることができ、事業所では、会議後から、2ヶ月に1度いろいろな災害を想定した避難訓練に取り組むことにされた。職員も運営推進会議に参加することで、地域の方等とも顔見知りになり、水害災害について意見をいただいた地域の方と、避難訓練の計画を立てる等されている。</p>	<p>地区の組長の役を務めることとなり、事業所では、地域の方との新たなおつき合いが広がっていくことを期待されている。今後さらに会議を活かして、事業所や認知症の理解・協力者を増やしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加してもらったり、市からの実習や見学にはいつでも受け入れている。また、代表は市からの講習に講師として参加したり、現状を伝えるよう協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、市の担当者の方に苦情の事例を教えてください、災害時の避難マップの作成について情報をいただいている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間の安全確保以外では玄関の施錠は行っていない。内部勉強会で取り上げ、スタッフへの理解を深めるようにしている。また、言葉によって、行動を制限していないか、スタッフ間で見直すようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、利用者のあざ、打ち身、内出血等全身をチェックして、発見した場合には、「傷シート」に発生場所を記載し、ご家族に報告されている。又、職員で原因や防止策を話し合い、再発防止に努めておられる。あざがしやすい利用者の移乗時には、タオルケットを使用する等、ケアに工夫をされている。さらに、利用者が当たっても傷つかないようにベット柵を布でカバーされていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に1回勉強会やミーティングにて理解を深めている。接し方や言葉遣いなど、自分たちのケアを確認するようにしている。また、入浴時や更衣時には身体にアザや傷がないか確認し、発見時にはシートを利用し、情報を共有するようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングにて取り上げ理解を深めた。実際、ホームに入居してから利用された方もおられる。また、ご利用者の認知症状については、ご家族を確認したり、身よりのない方には地域包括に相談したりしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、ご本人の家に行ったり、来て頂いたりし、ご家族とご本人とで契約するようにしている。契約前にも訪問したり、関係づくりに努め、契約時には具体的なケースも提示しながらご家族、ご本人に理解を確認し、契約している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に1回は家族アンケートを行いご家族の意見を聞くようにしている。家族会は開催するが、参加者がいない時もあり、個別に意見を聞くようにしている。ご利用者には積極的に外部の方とふれあう機会を設け意見を聞き出してもらったりしている。(運営推進会議や同法人の別事業所、ご家族など) (外部評価) 毎月、管理者は利用者が話されたことや様子を手書きしたお手紙に写真を添えてご家族に送っておられ、電話時やご家族の来訪時、職員との会話のきっかけとなっている。又、年1回、事業所独自のアンケートを行っておられ、アンケートの回答をきっかけにして、職員で話し合い、ケアの改善に努めておられる。家族会は、年に2回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、行事等でご家族が来訪する際等を捉えて開催されている。今後は、ご家族同士で交流できるような機会作りにも取り組みたいと考えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送りや月1回のミーティング、3ヶ月に1回の面談などを通して、意見を管理者や代表に言える機会をつくっている。ご利用者に関することなどは申し送り内で他のスタッフともカンファレンスを持ち次の日から実施されることもある。 (外部評価) 職員は年間計画を立てて、希望する研修を受講できるようになっている。又、管理者は、職員個別にもスキルアップできるよう、研修受講をすすめておられる。サービス評価が事業所のサービスの質の向上につながるよう「評価委員」を中心に取り組んでおられる。現在、職員から、利用者が持ち込んでおられる写真について、ご本人にエピソードをお聞きして「利用者個々のアルバムを作ってはどうか」という提案があり、取り組んでおられるところであった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) OJTチェックシートを2ヶ月に1回行い、管理者と意見交換する機会をつくっている。また、人事考課にて管理者と目標をたて、その達成具合を面談にて確認している。ミーティングではケアについての勉強はもちろん、自己覚知につながるような内容にし、みんなで取り組むようにしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年度初め頃にスタッフの希望も聞きながら、一年の研修計画を立て、全スタッフが内外の研修に1回は参加出来るように、支援している。面談やシート、ミーティングなどを活用し学ぶ機会を多く持てるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者、スタッフは外部の研修や相互研修に参加し、意見交換を行っている。毎回同じスタッフにならないように、交代で参加するようにしている。また、近くのグループホームと交流をしたり、ご利用者が遊びに行ったりしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が入居前に自宅へ訪問したり、ホームにご本人と見学に来てもらうなどして関係をつくるようにしている。また、そのことをミーティングなどでスタッフに伝えている。隣接している小規模からの入居もあるので、普段よりスタッフと関係がつかれるように配慮している。(一緒に行事をする。挨拶をしあうなど)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時に何に困っているのか電話や直接会って話を聞くようにしている。また、ご本人のいないところで話を聞くなどし、いいやすい環境にも配慮している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 電話での問い合わせの時点で、どのような事に困っているのか聞き、サービスの紹介や状況を説明している。たらい回しにならないように具体的にサービスの紹介をするように心がけている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの得意なことを見極め一緒にするようにしている。また、何事(毎日の日課や行事、メニューや外出先など)もご利用者と相談し、ご利用者が決められるように支援している。スタッフがわからない事を教えてもらうこともある。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や誕生会、家族会などをどうして一緒に参加してもらえるように案内をしている。今年度は母の日に手紙を書いてもらえるよう働きかけご利用者もとても喜ばれた。また、そのことをご家族に伝えることでより、ご本人とご家族の関係が近くなることもあった。受診や外出、外泊にもご家族に協力いただいている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居にはご本人、ご家族に今までの生活を聞き取り、その中で馴染みになっていることや物、人を探り、支援できるように努めている。自宅に帰る支援をしたり、外出時に側を通ったり、墓参りにいったりすることもある。また、ご家族や知人の方から便りや荷物が届けば、必ず本人から電話や便りをだしてもらおうよう支援している。 (外部評価) ご自宅でもお花を飾り暮らしを楽しんでおられた利用者と、花屋でお花を選んで生けることができるよう支援されている。利用者は、花屋とも顔なじみになり、利用者の娘さんが住んでいる地方に咲く花を教えてください、ご本人がお花を選ぶお手伝いをしてくださる。系列事業所に入居されているご家族に会いに行かれたり、併設小規模多機能事業所を歩き来して知り合った方もいる。母の日には、利用者の手作りのハガキをご家族に送り、お手紙を書いていただく等して、ご家族との絆をつなげるような取り組みもされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士のことはなるべく見守るようにしている。みんなで食事をとるようにし、重度の方にも声をかけるご利用者もおられる。外出時やイベント時にもご利用者同士でも楽しめるよう、配置など工夫している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても1ヶ月後くらいに管理者からお手紙と写真を郵送している。それ以降はご家族の希望にもよるので、働きかけはしていない。ただ、町で偶然に会ったときに声をかけてもらったり、近くに来たからとのぞいてもらえることはある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中から会話を心がけ、ご利用者の意向や要望を聞き出すように心がけている。写真や筆談などを使い意向を表しやすくしている。また、日々の記録でご本人の思いを記録出来るようにしている。 (外部評価) 朝食後、職員は利用者にご今日の過ごし方について希望をお聞きしておられ、その日の利用者の状態も踏まえて支援されている。利用者の意思表示を「待つ」ことを大切にされており、又、調査訪問時には、職員が利用者へ「何を手伝いましょうか?」と意向を引き出せるような声かけをされていた。調査訪問時、移動パン屋が来てくれ、職員は利用者のそばでサポートしながら、ご自分でパンを選んだりお金を支払えるよう支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居してからでもご本人やご家族に聞き取りをおこない把握するようにしている。情報は申し送りやミーティングなどで共有するようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録に残しながら、朝・夕と申し送りをを行い、過ごし方やいつもと違う事を伝えあうようにしている。1ヶ月の経過記録をつけて暮らしの経過を確認するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族には電話や来所時に意見をもらったり、状況を説明しながらご本人にとってどうなのか一緒に考えてもらうようにしている。また、ご本人からは日々の中で思いを汲み取るようにしている。スタッフ間では毎日の申し送りと月1回のミーティングにて確認をしている。</p> <p>(外部評価) 24時間シートを使用して日々の利用者個々の生活の様子を記録されて、管理者は、1ヶ月の利用者一人ひとりの様子が分かるように経過記録にまとめておられる。3ヶ月ごとに、利用者個々の担当職員は、経過記録を参考に利用者やご家族の意見も採り入れ、介護計画立案シートを作成して、カンファレンス時に職員で気付きを出し合い、介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の記録を個人別につけ、気づき(ケアの実践やご本人の思いにふれたものなど)を残すようにし、1ヶ月の経過報告にいかしている。経過報告を活かし介護計画作成時にアセスメントするようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族との外出や外泊の送迎や準備、ご自宅の墓参りなどご本人、ご家族にあわせて相談しながら支援している。お葬式に参加されたり、お友達と選挙に行く方もおられる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のスーパーなどに積極的に利用し、休息をとらせてもらったり、個別に敬老会に参加してもらったりしている。地域資源が限られた状態で入居されている方もおられ、情報収集している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居前にご本人、ご家族と相談しかかりつけ医を決めている。ホームの協力医にするかたもおられるが、今までどうりにご家族と受診に行かれるかたもおられ、ご本人の状態に合わせて支援している。また、受診時には3ヶ月に1回程度に同席させてもらい、ホームの様子を伝えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 病院受診時、ほとんどの利用者には、ご家族が付き添われている。年に1度、「いい歯の日」には、職員がセンター方式の様式を用いて、入れ歯等、口腔状態を確認されている。隣接の訪問看護ステーションは、24時間対応していただけるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 隣接している訪問看護ステーションと契約をしており、一週間に1回訪問に来てもらい、ご利用者全員の健康チェックを行っている。その時に経過を報告し、助言をもらったり、協力を仰いだりしている。緊急時にもすぐに相談できるように体制をとっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時はご家族と共に付き添い、情報の提供や認知症状について伝えている。また、一週間に一回は状態を見に行きご本人、ご家族の状況を確認し、相談にのれるようにしている。ご本人ご家族の選択肢になるように努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 契約時にホームでの方針を伝え同意いただいている。また、実際に重度化や看取りになっていく経過をご家族によく報告し、その都度の方向性を確認している。ホームで出来ること、出来ないこと、そのことによりご本人がどのような状態になるのか、具体的に話すようにしている。また、ご利用者によっては、少し体調を崩しても細かいことまで確認をするようにしている。ご本人、ご家族の意向などはミーティングなどで共有するようにしている。</p> <p>(外部評価) 看取り時の対応の指針には、重度化や終末期に想定される状態を具体的に示して、対応の指針を記しておられる。家族会時には、事業所で実際に経験した看取り支援の事例を報告されている。ご家族の気持ちにも寄り添って「話し合いながら一緒に決めましょう」と不安や心配ごとを聞き取りながら取り組んでおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回は消防署の救命講習を受けるようにし、交代でスタッフ全員が研修に出れるようにしている。参加したスタッフはミーティングで実践を交えて報告するようにしている。急変時のマニュアルも新人に説明をし、連絡できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に1度は消防署同席で、地域の方と避難訓練を行い、ホームの状況もふまえて指導いただいている。3ヶ月に1回は自主訓練を行っていたが、ご家族からの提案で、2ヶ月に1回行うようにしている。色々な状況を設定し、スタッフ間で訓練している。ご利用者も参加し、意見をもらったりしている。 (外部評価) 事業所で行う避難訓練には、地域の方にも参加していただき、利用者の避難誘導に協力していただいた。「入口に靴や椅子があり、車椅子の出入りがし難かった」との意見や「夜間、ホームの裏は真っ暗ですよ」と教えていただき、参考になることが多かったようだ。併設事業所と合同で、訓練を行うこともある。	地域の方から、事業所付近は、水害の恐れも想定されるという情報が得られ、今後は水害への対応についても訓練を行いたいと考えておられた。又、地域の方と協力し、避難マップ作りや、水害を想定した避難訓練も計画されていた。今後さらに地域との協力体制を作り、いざという時にすべての利用者、職員の安全が確保できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 着替えや排泄時はもちろんだが、声かけや状況によって、言葉は選ぶようにスタッフ間で注意しあったり、ミーティングなどで勉強している。居室の入室にも気をつけている。また、ご本人の情報は持ち出さないよう、スタッフへの理解を深めている。 (外部評価) 排泄支援時、職員がトイレ内で介助する場合に、職員は利用者の前で介助するのではなく、利用者の隣で座って介助するように配慮されている。調査訪問時、利用者の個人情報について職員同士で連絡し合う際には、利用者から少し離れた場所で行っておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活はご本人に選んでもらえるように写真や筆談、質問を工夫して、希望を引き出すようにしている。また、日々の会話のなかから思いや希望を引き出すようにしている。(外出やイベントの後、ご家族の来所後など)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝の申し送り時に一日の支援をスタッフ間で確認し、ご利用者に相談するようにしている。何事もご利用者に選んでもらえる様に、状態に合わせて提案、相談している。(ドライブや散歩、買物、墓参り、自室で過ごすなど)	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自宅に戻り衣替えをしたり、一緒にクリーニングに出したりし、衣類の保管に努めている。また、外出時やイベント時には一緒に服を選んだり、お化粧をされるかたもおられる。行きつけの美容院に行かれる方や髪型も相談しながら支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者と一緒に食事作りやメニュー決めを行っている。片付けはご利用者が自分たちでできるよう、見守ったり、支援している。また、ご本人のタイミングで、おいしく食べれるように、ご本人のサインや状態に合わせて食事時間を変えたり、補食を食べたりと工夫している。	
			(外部評価) 冷蔵庫にある食材等をみながら利用者と相談して食事作りをされており、メニューが重複しないように、1ヶ月の献立が分かるように記入されている。調査訪問時には、利用者のリクエストで日本そばを作っておられ、利用者それぞれがご飯をよそったり、お皿に盛られたおかずをご自分で取って食事をされていた。食事が済んだ利用者は、順番に下膳され、食器を洗っておられた。食事中はラジオが流れていて、職員も一緒に座って同じものを食べておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月に1回、体重を測定し、栄養状態を確認するようにしている。ご本人の状態によって、補食をしたり、食べやすくしている。また、食事量の少ない方は申し送りし、スタッフ間で共有するようにしている。水分量は毎日記録し、1000cc取れるように支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後にご利用者にあわせて支援している。年に1度は口腔アセスメントをとり、ご利用者の口腔状態を確認している。また、口腔ケアの勉強会なども行い、スタッフが気にする所から取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表をつけ、状態を把握し、申し送りなどで全員で確認するようにしている。失敗の多くなってきた方には、パターンをみてトイレに誘導したり、誘導の間隔を確認しながら支援している。また、外出時やイベント時、就寝時によって、使う下着を替え、失敗しない支援を行っている。なるべく布のパンツを使っている。 (外部評価) 職員は、利用者のしぐさ等をみながら、トイレに誘導して排泄支援されている。トイレの便座の横に、椅子が置かれてあり、ひとりで座っていることが難しい利用者については、職員が横のいすに座ることで、ご本人がトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 申し送り時に排便を確認し、ない方へはバナナや、メニューの工夫、運動、ホットパック、牛乳など、その方にあった方法で排泄できるように個別に支援している。また、普段の食事に、七分づきのお米や芋、ごぼうなどを取り入れるようにしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の回数や時間帯、入浴方法はご本人の希望を聞き取り支援している。また、要望の伝えにくい方にはタイミングや毎回の入浴をアセスメントし、リラックスできる時間を選んでいる。入浴剤の使用や花や絵を飾り、会話しながら入浴できるよう支援している。お湯の温度も季節で変える事はもちろんだが、ご本人にあわせて支援している。 (外部評価) 入浴の時間は、毎朝食後にその日の利用者の体調等もみて予定を決めるようにされており、個々に希望をお聞きしながら支援されている。夜間は9時まで入浴できるよう体制を作っておられる。気管切開されている利用者も、エアークッション等の用具やケアを工夫して、浴槽で温まれるように支援されている。利用者それぞれに合ったシャワー椅子を準備されていたり、入浴剤をいくつか準備して、利用者が選べるように工夫されている。浴室の壁には、季節を感じるようなポスターを貼っておられたり、お花見に行けなかった利用者には、桜や桃の花の枝を飾り、浴槽には花びらを浮かべて、春の雰囲気を楽しんでいただいたこともある。シャンプーや石鹸、ボディソープ、おけ等は、利用者が使いやすいものをそれぞれ準備して、ご自分の力を使ってくつろいだ入浴ができるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の状態や要望によって、横になれるよう支援している。フロアで横になるかたや居室に戻る方それぞれで支援している。日中の活動も促し、申し送りで睡眠パターンを確認するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフには新人時に全員の処方箋を確認し、薬の変更、追加などあるとその都度に処方箋と共にスタッフ間で確認している。飲み間違いのないように、何人かがチェック出来るように工夫している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や買物、外出やゲーム、生け花や会話、体操など、その日その日にしたいことを聞き出し、提案し支援している。ボランティアの訪問を楽しみにしている方や移動パン屋、地域の散歩時に声をかけてくれる方など、人とのつながりも大切にしている。また、共にする、過ごすことも大切に、その時に思いを聞き出すようにしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ほぼ毎日誰かが、外出している。ご本人の意向や状態、体調など相談しながら提案したり相談して。提案しやすいように外出マップなども作成し、ご利用者に選んでもらえるよう支援している。また、ご家族との外出時にお手伝いをしたり、墓参りに一緒に出かけたりしている。隣接する小規模と一緒に出かけたり、他のホームに遊びにいたりしている。 (外部評価) 外出される時には、お化粧をされる方もいる。お寺まいりがお好きな方が多く、「外出マップ」を作成して、利用者とともに外出先を決めておられる。又、「海、山、街中」等、希望が出しやすいよう、利用者に応じて質問の仕方も工夫されて、外出先を決めるようにされている。「毎日どこかに出かけたい」と、取り組みをすすめておられ、歴史博物館やしまなみ海道、お寺詣り等、午前中に話題になった場所等に、グループや個別で出かけておられる。利用者同士で誘い合ったり、「みんなが行くなら」と、気が向くような利用者もおられる。外出先では転倒等がないよう安全に楽しめるように、職員は気を付けて見守っておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物時はご本人が支払いできるように支援している。特に週1回来る移動パン屋の時は店員も待ってくれたりし、ゆっくりと支払いできるように協力いただいている。お一人お一人で財布を持っており、ご自分で管理されている方も多い。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞い、お礼の手紙など事があればご利用者によって支援している。書きやすくスタンプにしたり、名前を入れてもらったりしている。荷物が届くと必ずご本人から電話をしてもらい話すきっかけにもなっている。今年は母の日にご本人手作りのはがきをご家族に郵送してもらい、家族でのやりとりが増えた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者の生活動作や導線を考え、イスや配置を都度に変更している。季節により室温をかえ、ご利用者の衣類にて微調整している。また、テレビやラジオ、歌など音量や状況によって変えている。季節あわせたタペストリーを使ったり、生け花を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、ハンガーに上着をかけておられたり、帽子や杖等、いつでも外出できるよう準備されている。調査訪問時、利用者はこたつやソファに座ってくつろいでおられたり、横になっておられる方もあり、それぞれに過ごされていた。食事中はラジオがかかり、食事後にはテレビで連続ドラマを見られる方もみられた。窓からは自然の光が入り、「今日はお天気がいいね。お出かけしたらいいわ」と話される利用者の声も聞こえていた。2階への階段には、移動式リフトが設置されており、利用される方もおられる。ぞうきんやモップを置いておられ、利用者も一緒に掃除をしてくださっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアや階段、廊下、台所など様々な所にイスを置き、思うところにすわれるよう配慮している。座るところはある程度決まっているが、みんなで集まる場面もつくっている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にご本人、ご家族と相談し、持ち込む物を決めている。なるべく使っていた物を持ってきてもらうようにしている。ホームに来てからも物を一緒に買ったり、思いでを飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室に、こたつを置いている利用者もあり、他の方が訪ねて来られ、一緒にテレビをみることもある。仏壇を持ち込んでいらっしゃる方は、職員がサポートしてお茶をお供えしたり、職員も一緒に座ってお経をあげることもある。又、職員が居室にお邪魔してアルバムを見せていただきながら、その時代のお話を聞かせていただくこともある。濡れタオルをかけて湿度に気を付けている居室もみられた。誕生日にもらったメッセージを飾っておられる方もいる。パズルのお好きな方はご自分の作り上げたパズルの作品を、ご家族と一緒に作った額に入れて飾っておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の状態に合わせて、居室や移動を検討している。なるべく歩いて生活できるよう歩行器や手引きなど少しの距離でも出来るようにしえんしている。</p>	